

重要文化的景観の選定等

《重要文化的景観の新選定》 5件

1 加賀海岸地域の海岸砂防林及び集落の文化的景観【石川県加賀市】

加賀市西端部、日本海と大聖寺川に挟まれる区域に広がる文化的景観で、陸域と周辺海域から成る。海岸砂丘が発達しやすい自然条件下にあって、造林によって飛砂から集落や耕地の保護を図る近世以降の取り組みを伝えている。自然環境のみならず、乱伐とも関係する景観である。

300年以上に亘る歴史の中では、汀線と大聖寺川の間に、砂浜、前丘、海岸砂防林、民有林、集落、水田の帯が並ぶ明確な土地利用区分が定着し、この特徴が、橋立丘陵等から一望できる日本海から海岸砂防林までの一体的な眺めと、大聖寺川沿岸等から見られる水田、集落、森林が重なる風景に表れている。これらの中には、海岸砂防林の背景となる歴史、造林技術、生活との関連を伝える建造物や自然物等が残る。

加賀海岸地域を超え、飛砂の影響を受けやすい日本海沿岸の地域における生活を理解する上でも重要である。

2 越前海岸の水仙畑 下岬の文化的景観【福井県福井市】

福井県嶺北地方の越前海岸では、丹生山地の西側斜面が日本海に向かって急崖を成す。暖流により冬は比較的暖かく、強い海風が直接あたって雪が積もりにくく、水はけが良いため、古くから水仙が自生する。一方、平地が少なく、冬は海が荒れ、住むには厳しい環境である。そのため、集落では、幾つもの生業を合わせながら生活が営まれてきた。冬の副業として自生する水仙を採取し、売ってもいたようであるが、近代には正月花として斜面での栽培が始まり、戦後は棚田等に栽培地が広げられ、水仙を主たる産物の一つに発展させた。越前海岸の水仙畑は、このような中で形成された文化的景観である。

この最北部を成す福井市下岬地区では、山麓部に断続的に広がる緩斜面や海成段丘に、棚田の石積みや銀杏、柿等の果樹を残しながら広がる水仙畑を特徴とする。また、このような地形における海沿い、段丘上、山間の集落の歴史と文化を表す景観を継承する。

福井県嶺北地方海岸部における人々の暮らしを理解する上で欠くことのできない景観として重要である。

3 越前海岸の水仙畑 上岬の文化的景観【福井県丹生郡越前町】

福井県嶺北地方の越前海岸では、丹生山地の西側斜面が日本海に向かって急崖を成す。

暖流により冬は比較的暖かく、強い海風が直接あたって雪が積もりにくく、水はけが良いため、古くから水仙が自生する。一方、平地が少なく、冬は海が荒れ、住むには厳しい環境である。そのため、集落では、幾つもの生業を合わせながら生活が営まれてきた。冬の副業として自生する水仙を採取し、売ってもいたようであるが、近代には正月花として斜面での栽培が始まり、戦後は棚田等に栽培地が広げられ、水仙を主たる産物の一つに発展させた。越前海岸の水仙畑は、このような中で形成された文化的景観である。

この北部、越前町上岬地区では、越前岬の高い海食崖上の段丘及びこれに続く緩斜面の広大な棚田跡に広がる水仙畑を特徴とする。また、このような地形における山上、谷間、入江の集落の歴史と文化を表す景観を継承する。

福井県嶺北地方海岸部における人々の暮らしを理解する上で欠くことのできない景観として重要である。

4 越前海岸の水仙畑 糠の文化的景観【福井県南条郡南越前町】

福井県嶺北地方の越前海岸では、丹生山地の西側斜面が日本海に向かって急崖を成す。暖流により冬は比較的暖かく、強い海風が直接あたって雪が積もりにくく、水はけが良いため、古くから水仙が自生する。一方、平地が少なく、冬は海が荒れ、住むには厳しい環境である。そのため、集落では、幾つもの生業を合わせながら生活が営まれてきた。冬の副業として自生する水仙を採取し、売ってもいたようであるが、近代には正月花として斜面での栽培が始まり、戦後は棚田等に栽培地が広げられ、水仙を主たる産物の一つに発展させた。越前海岸の水仙畑は、このような中で形成された文化的景観である。

この最南部、南越前町糠地区では、国道沿いの直線的な断層崖に形成された水仙畑を特徴とする。これは、養蚕や杜氏等の各種副業の盛衰の歴史を表すものであり、水仙畑を引き継いだ杜氏集落と対を成す。

福井県嶺北地方海岸部における人々の暮らしを理解する上で欠くことのできない景観として重要である。

5 瀬戸内海姫島の海村景観【大分県東国東郡姫島村】

大分県北端、姫島村の村域である姫島全域とその周辺海域から成る文化的景観である。瀬戸内海の西端部かつ九州を縦断する火山フロント上に浮かび、その位置は周防灘と伊予灘の境にもあたる。そのため、噴火時の形状を留める火山群を広い砂州が繋ぐ、瀬戸内海では特異な姿を持つ。この島の容姿が、砂州上の松と共に、海からの目標物であり続

けている点に特徴があり、自然環境に大きな負荷をかけることなく漁業や塩業、農業を営んできたことを伝えている。

島内では、二つの村社が瀬戸内海や国東半島との歴史的な繋がりを想起させる。その周囲に形成された集落はいずれも、近海を中心に季節や潮汐に合った漁を通年で営み、漁港周りに漁具倉庫、恵美須社、盆坪等の共通の設えを見せる。また、塩業や農業の歴史、生活慣習、伝承等に関わる建造物や自然物等が残る。このような要素が地形と共につくる景観は、島と海の資源を目一杯生かしながら複数の生業を営んできた海村かいそんの生活や文化を表わし、また、漁業期節ぎよぎよきせつに代表されるような生物資源管理の約束事を、島全体で守り、一島一村いっとういっそんとして自立的に過ごしてきた歴史を伝えるものであり、独特である。

《文化的景観の追加選定及び名称変更》 1件

1 あそ ぶんかてきけいかん 阿蘇の文化的景観 あそ きたがいりんざん そうげんけいかん 阿蘇北外輪山の草原景観【熊本県阿蘇市】

(旧名称)

あそ ぶんかてきけいかん 阿蘇の文化的景観 あそ きたがいりんざんちゅうおうぶ そうげんけいかん 阿蘇北外輪山中央部の草原景観

平成29年選定の「阿蘇の文化的景観 阿蘇北外輪山中央部の草原景観」612.6ヘクタールに、新たに所有者等の同意を得ることができた草原を追加して5766.0ヘクタールとし、名称を「阿蘇の文化的景観 阿蘇北外輪山の草原景観」に変更する。